



PHOTO: TAKASHI AOE REPORT: JAMES SEKIJIMA

## 骨って基本だから基本をしっかりしていきたい。 余計な肉のないシンプルさ、それが理想です。



守田二草 (つぐさ)  
39歳。栃木県出身東京都在住。フリーライター兼3歳の娘・倫ちゃんのお母さん。彼女が座っているバイクはダンナのチョッパー。



倫ちゃんの服はとにかくドクロものが多い。メーカーには特にこだわらず、ドクロだったらとりあえず買っちゃえ…らしい。



もらいもののリアルなドクロの灰皿は、夫婦ともにタバコを吸わないためアクセサリ入れとして使用。さらに写真では大きすぎて写せなかったのだが、下に敷いてある黒白のモコモコも実はドクロのラグだったりする。

お気に入りでの日も雇っていたスニーカーは、五反田TOCの中にある「ハリウッドミラー」という古着屋で購入したユーズド。



一見キレキレのキャリアウーマンふうにも見える二草さんもまた、ドクロ愛好家である。ちょうど仕事のピークで超多忙にも関わらず来客があれば絶やすことのない爽やかな笑顔の合間に、時折見せる真剣な眼差しで、自身のドクロ好きを語ってくれる。「骨が好きなんです、骨が。中原中也が『骨』っていう詩を詠んでたりするんですけど…なんだろう…肉とかは余分なものみたいな。イメージ的にですけど、骨っていうのは気高いというか。やっぱり骨って基本だから、基本がしっかりしたい、背骨がしっかりしたい。逆に言えばそれだけでいいのかなど。できればシンプルに生きたい。基本、なんにもなくて生きていける人間になりたいみたいなのがあるんですよ。モノに依存しない、頼らない……」

「歌でも泉谷しげるの『春夏秋冬』の中の〈冬に骨身をさらけ出す〉みたいな、ああいう耐えて耐えてじゃにけど、全部そぎ落として骨になりたいみたいなね、そういうところもちょっとある。明るいだけのものよりね、『いろいろあんだよ、お日様の下ばかりじゃないんだよ』みたいな。そんな感じ」



裏面はウッドで落ち着いているが、表が一面スカルジッポ。大きめのスカルが3個ついているのは珍しい。底面には本人からのメッセージが。



事故の時にケバ立つようにささくってしまった場所を本人が直してくれた。



側面にスタンリーの名前が彫り込まれているが、よく見るとリングが歪んでいるのがわかる。事故の時のインパクトのすごさがわかる。指を守ってくれた。



大胆なスカルもあれば、ペンダントチェーンになる細かく繊細な作品もある。細かくても作りはさすがだ。



新井知之  
33歳。埼玉在住。スタンリー・ゲスの大ファン。とはいえブレスを何個も揃えて日替わりにするような趣味はない。



作る側の思い入れは割と聞けることができるのだが、それを買って身につける側にはどんな思いがあるのだろうか。スタンリー・ゲスにこだわりそのアイテムしか身につけないという新井さんは。「スカルのシルバーアクセサリはずっと欲しかったんですけど、絶対に納得できるものがない」と長い間探していた。そしてあるジュエリーショップでスタンリーの作品を目にして一目惚れ。スタンリー本人が来日した時にリングとブレスを購入。クロムハーツのシルバーを作り、その名前をシルバ

ーのトップに押し上げた男スタンリー・ゲス。成功した男が日本の見ず知らずの男の問いかけに気さくに答えてくれ、その人柄にもすっかり魅せられてしまった。リングとブレスをしてバイクで走っている時に、大きな事故を起こしたがたいした怪我をしなくて済んだ。それからは「お守り」として常に身につけている。再来日した時にそれを話すと、その場で傷を自ら直してくれ、その時買ったジッポの裏には「自分の天使を追い越すような走りはするな」という文面が彫り込んでくれた。もうそれ以外はつけない、最高のスカルだ。

## お守りとして実証済み。最強のスカル ジュエリーに出会ってしまった。

PHOTO: HIDE MICHIKAWA REPORT: SIGEYUKI OMORI

